

大きな憧れをいただく大草っ子



大草小学校だより 「だいじょうぶ」

第7号 平成29年7月18日(火) 校長 有谷孝彦

学校づくりの合言葉 「大草トライアングル！」 トリプルC

自信 (Confidence) 挑戦 (Challenge) 思いやり (Consideration)



やっぱり 思ったとおり

トンボといえば、やはり秋の昆虫というイメージですが、校庭にはシオカラトンボなど多くのトンボが飛んでいます。異常気象のせいでしょうか、昆虫も自分の出番を迷っているようですね？

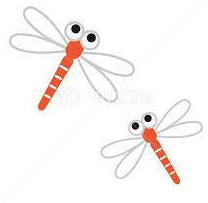


さて、つい先日1学期の始業式、入学式をつい迎えたばかりという感覚なのですが、・・・やっぱり思ったとおり「あ

っ」という間の1学期間でした。一日一日を大切に噛みしめながら過ごすよう心掛けていたのですが、素敵な時間ほど早く経過するのだと実感しています。

子どもたちは、運動会をはじめとする学校の諸行事等で大きく成長しました。特に、5・6年生は最高学年としての自覚が芽生え、言動に大きな変化がみられました。認められる、委されるとそれに応えようと懸命に努力していました。全での子どもにいえることですが、学習に臨む姿勢もずいぶん変わってきました。先生の話に集中し、黒板を凝視する子どもたちの様子は、まさに「自信 挑戦 思いやり」です。1学期という節目を気持ちよく迎えられそうです。





©2017 - 17047620

とんぼのめがね

額賀 誠志

とんぼのめがねは
水いろめがね
青いおそらを
とんだからとんだから

とんぼのめがねは
びかぴかめがね
おてんとさまを
みてたからみてたから

とんぼのめがねあ
赤いろめがね
夕焼け雲を
とんだからとんだから

教育週間の話(〇)/

天国にも地獄にも食べ物は同じ分量、たくさんの食べ物があります。天国でも地獄でも、みんな丸いテーブルを囲んで座り食事を始めるのですが、その時、両者とも1メートル以上もある長い箸を使って食べなければならないのでした。天国でも地獄でもその条件は全く同じなのでした。

ところがいざ食事を始めるとなると、天国と地獄ではその箸の使い方に大きな違いがありました。

地獄にいる人はその長い箸を使って一生懸命食べようとするのですが、箸があまりにも長すぎるために、なかなか思うように食べ物を自分の口まで運ぶことができません。益々躍起になって自分で自分の口まで食べ物を運ぼうとするのですが、躍起になればなるほどうまくいかず、食べ物はポロポロと下に落ちるばかりでした。ですから地獄にいる人たちはいつまで経ってもおなか一杯になることはできず、いつも空腹の状態に苦しまなければなりませんでした。

一方、天国にいる人たちはいつもおなか一杯の満足感を味わい、幸せを感じながら過ごしていました。天国にいる人たちは、その長い箸を決して自分のためには使わなかったのです。その長い箸で食べ物をつまむと、その箸を自分の正面に座っている相手に向かって差しだし、「あなたからどうぞ」と言って相手の口元まで自分の箸を運ぶのでした。テーブルを囲むお互いがみんな同じように、「あなたからどうぞ」という箸の使い方をしています。相手のために働かせる箸をみんなが持っているのです。決して自分のために使う箸ではなかったのです。相手のために自分を働かせることによって、相手もまた自分のために働いてくれる。天国ではそういうことが自然に行われているのでした。ですから天国にいる人たちはいつもおなか一杯で、幸せいっぱいなのでした。自分の「満腹」(欲求)を満たすことだけを目的にし、そこから抜け出さずにいくら躍起になっても結局は「空腹」(空しさ)に苦しむだけです。自分だけのことから出発したのでは、本当の「満腹感」(満足感・幸せ)を感じることはできないということなのでしょう。



人間はいつも長い箸を持って生きているのかもしれませんが。人生の瞬間にその長い箸をどのように使っているか、地獄に近い使い方か、天国に近い使い方か、自分のその時の心のあり方を顧みると、今自分は本当に幸せを感じているのだろうか、自分の心の幸せを再認識できるかもしれません。子どもたちの心情面の育成にも、「あなたからどうぞ」と言って相手のために使える「なが〜い箸」を持たせたいものです。

学校の様子等については、大草小学校HPにも掲載しておりますので御覧ください。